

講義名	英語で学ぶグローバルコミュニケーション【GSP・上級者用】			
担当教員	中川 典子			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

Intercultural communication is an academic and a practical field which started in the U.S in 1960s. This course aims to give students an opportunity to explore factors of miscommunication in intercultural contexts, deepen understanding of cultural diversity and nurture a positive attitude towards people with different cultural backgrounds.

異文化コミュニケーションは1960年代のアメリカ合衆国で始まった学問的かつ実践的分野である。本コースの目的は受講生がクラスでの学習活動を通して、異文化の状況で起こるコミュニケーションの原因を探り、文化的多様性への理解を深め、文化的背景の異なる人々への肯定的態度を醸成する機会を提供することである。本コースの主題は、外国語の習得と、それを通してグローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶことを目的とする。本学グローバル科目の趣旨に沿うものであり、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成するという本学共通科目のディプロマポリシーに貢献するものである。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

(1) Understanding theories and concepts of intercultural communication. (異文化コミュニケーションの理論と概念を理解できる。)

(2) Being aware of your "self" and your own culture. (自己と自文化に対する気づきを深めることができる。)

(3) Being aware of various aspects of different culture and showing respect to cultural diversity. (異文化におけるさまざまな側面に対する気づきを深め、文化的多様性に敬意を表すことができる。)

(4) Developing your English communication skills through various class activities. (様々な授業内活動を通して英語コミュニケーション力を身につけることができる。)

上記の到達目標は、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成するという本学共通科目のディプロマポリシーの達成に役立つ。なお、本コースでは、英語をコミュニケーションの目的としてではなく、上記の目標を達成するための手段と見なす。

提出課題

テキストの内容に準拠して担当講師が作成したワークシートに取り組み、さまざまな課題を提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

小テストの結果に助言を与えたり、受講生が提出したワークシートの英語表現を添削指導する。

評価の基準

(1) Homework (30%) (課題)
(2) Quiz (20%) (小テスト)
(3) Presentation (20%) (発表)
(4) Final Examination (30%) (定期試験)

履修にあたっての注意・助言他

(1) コースの評価は、上記の評価基準の(1)(2)(3)(4)のすべてを完了した人に対して与えられます。1つでも参加しない項目がある場合、単位を取得できません。
(2) 交通機関の遅延等、正当な理由なく、15分以上遅刻した場合や欠席となります。3回遅刻で1回欠席、また、5回以上欠席すると最終試験を受けられず、単位を取得できないのでご注意ください。
(3) 第1回目の授業までに必ず、指定教科書を購入してください。教科書不購入により生じる学習上の不都合はすべて自己責任です。教科書を購入せずに授業に出席しても、単位は取得できません。
*常に真摯な態度で受講してください。第1回目の授業で履修に関する重要事項を伝えますので、必ず出席してください。

新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの変更が生じる可能性があります。

教科書				
.Speaking of Intercultural Communication.	Peter Vincent	Nan'un-Do	¥1,900	978-4-523-17840-8

プリント資料及び参考文献

授業中に適宜、配布する。

授業計画

回 授業計画
1. Course guidance and pair work
2. Unit 1 Communication
3. Unit 2 Culture
4. Unit 3 Nonverbal Communication
5. Unit 4 Communicating Clearly
6. Unit 5 Culture and Values
7. Unit 6 Culture and Perception
8. Unit 7 Diversity
9. Unit 8 Stereotypes
10. Unit 9 Culture Shock
11. Unit 10 Culture and Change
12. Unit 11 Talking about Japan
13. Unit 12 Becoming a Global Person
14. Group Discussion: Cultural Assimilator
15. Group Discussion: Critical Incident

* その日の授業の進捗度により登壇に持ち越す場合がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：教科書の各ユニットのエッセイの単語の意味の検索および読解、各ユニットに関するワークシートに取り組み、次回のクイズの準備（2時間）
復習：授業内容の復習（ワークシートの添削箇所を確認、テキストのエッセイのリスニング、リーディングセクションの音読を含む）（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースでは英語学習を通して、円滑な異文化間コミュニケーションに必要な知識とスキルを修得する。これは「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」を育成するという本学の全学共通科目のディプロマポリシーに沿うものである。また、読解練習を通して海外の社会や文化について学び、基本的な読解と内容理解・情報収集に習熟することにより、卒業時に身につけておくべき資質・能力の育成につながる。これらの能力は同学部生に求められる各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識・経済学部生に求められる経済にまつ情報分析の力・人間社会学部生に求められるコミュニケーション能力の修得に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講師やクラスメートとのペアワークやグループワークを通じて、英語コミュニケーション力の向上を目指す。また、授業の最後に質疑応答の時間を設ける。

実務経験の有無及び活用

備考

授業に関する連絡事項はすべて「講義連絡」を通じて行いますので、必ず確認してください。第1回目の授業までに必ず、指定教科書を購入してください。教科書不購入により生じる学習上の不都合はすべて自己責任です。第1回目の授業で履修に関する重要事項を伝えますので、必ず出席してください。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況により授業形態に変更が生じる場合があります。